

三世代文化祭

11月3日～5日

芸術の秋というには暖かすぎる今年の文化の日から3日間(11月3日～5日)日高交流センターを会場に、日高文化協会主催の三世代文化祭が開催され、今年も多くの方々が来場されました。

今年も昨年同様、体育館の舞台での演芸披露は行われず、1階和室で民話の会によるお話と、活動開始して間もない琴の会の演奏を行うのみとなりました。

展示コーナーとなった2階の会議室ではこれまでも作品展示を行ってきた、かな書道や生け花、地元小中学校の生徒による書道や絵画のほかに、今年度から新たに幼稚園や認定こども園の園児たちによる作品も展示され明るくかわいらしい雰囲気満たされていま



展示品を鑑賞する地元の方々



今年から加わった切り絵の展示



流麗な筆使いのかな書道



地域の民話を楽しむ皆さん

隔月でお届けしている市民自治会広報紙「日高」、
「より興味を持って読んで欲しい」私たち編集担当者の願いです。
そのためには「更なる内容の充実した紙面づくり」に努めなければなりません。
そこで、10月13日、茨城新聞本社地域連携室NIE事務局長の澤畑和宏さんを講師に研修会を開催し、担当者11名が参加しました。
講師には、事前に今年度

魅せる広報紙づくり プロのアドバイスを受ける

発行した「日高」を送付しておきましたので、当日はそれらをもとに具体的に2時間のアドバイスを受けていただきました。
主に4つのポイントがありました。①見出しの付け方はどうか ②記事内容に強弱があるか ③読者の目線に沿ったレイアウトになっているか ④文は簡潔に書かれているかです。
講話の合間に演習や質疑もあり、なるほどとうなず



子供たちのかわいい作品が会場を明るくしてくれます



自らの作品の横に立つ作者



今年も力作ぞろいの鎌倉彫

文化祭を主催した日高文化協会の小澤代表にお話を伺うと、「コロナ禍で中止となった2年間に多くのサークルが活動を止めた影響が大きく、夏に、色鉛筆での絵画や切り絵などの体験教室を開催し、個人からの出品募集するなど、出品作品を増やす試みをしてきました」とのことでした。
皆さんも心を豊かにする芸術活動に親しんでみませんか。

エレベーター設置 工事始まる 交流センター

令和5年度日高市の事業として日高交流センターのエレベーター設置が認可となり、11月初めから本格的な工事が開始されました。エレベーターは交流センター北側入口に設置され、駐車場から2階に直接昇れるようになります。いまままでのように表玄関から階段でも2階に行けます。
工事期間は、11月から来年3月末までの予定で、その間交流センターの出入りや駐車場の使用には制限等がありますので施設側からの情報を確認してください。

側駐車場を使用。
・交流センターや体育館利用者は南側広場駐車場を使用。

会長受賞でまた一つ勲章 日高のラジオ体操

平成18年から毎日欠かさず続けている市民自治会のラジオ体操に、また一つ勲章が加わりました。
これまで日高のラジオ体操は、平成20年に市、23年には県の元気アップ賞で優秀賞に輝き、一昨年から日高市で始めたラジオ体操コンクールでも、日高のグループが2大会続けて上位入賞を果たしました。

きながら聞き入りました。今まで、何となく経験で作ってきた広報紙でしたが今後の方向性が明確になった気がします。
果して、今日配付した第215号は如何でしょう。



ここを こう直せば・・・



毎日欠かさずイチ・ニ・サン♪

豪雨災害後の安否確認

「無事です」に安堵

9月8日の台風13号では、線状降水帯の影響を受け日高学区においても、甚大な水災害を被ってしまいました。

日高学区市民自治会社会福祉委員会では、高齢者や障害のある方で、日立市避難行動要支援者名簿に登録されている方200名程を対象に安否確認を行いました。

当日は、日立市の指示により、土砂災害ハザードマップ内に居住している4名の要支援者に対し、避難所開設情報を伝えながら安否確認の電話を入れました。

台風が過ぎ去った翌日は、日高交流センター内に対策本部を立ち上げ、民生委員を含む支部福祉協力員45名の協力で安否確認を実施しました。

床上・床下浸水などの被害報告があがりましたが、全員が身被害を受けたことなく「無事です」との返事には安堵しました。

個別避難計画書 作成準備に

日立市では、避難行動要支援者名簿に登録されている方の個別避難計画書作成を進めています。これは、災害等の発生により、避難が必要な状況になった時、

指定避難所まで自力での避難ができない方の具体的な避難方法を確認するためのものです。昨年度は、名簿登録者でハザードマップエリア内に居住している方について、調査及び個別避難計画書作成を行いました。今年度は未調査の方が対象です。日高学区市民自治会では市と連携し、民生委員による聞き取り調査から進めています。自力避難が困難な方に対しては、随時社会福祉委員会の地域福祉推進員が出向き、個別避難計画書作成の支援を行います。

赤い羽根募金

大口奉仕者芳名

(敬称略・順不同)

私たちの森病院・大森商店・茨城環境企業・大高工務店・齊藤金四郎・三秀建設工業・石堂徳明・茨城県信用組合日高支店・豊田清明・志賀啓行・宇佐美吉郎・下平優・見城美智子・志賀勝弘・樫村守・見城智恵子・宇佐美寿郎・木田金房・矢部一良・海老沢清・志賀信夫・石井慶昭・小澤邦子・深澤嘉子・エイチシーネットワークス(株)・肥田順子・岩間恵美子ご協力に感謝申し上げます。

男は料理で勝負する

スパイスの香りと不規則にも聞こえる「トントン」という包丁の音。10月12日日高交流センターの調理室で「男性の料理教室」が開催されました。今回の参加者は5名。ほとんど料理初心者。ちよっと危なっかしい手つきですが、日高地区



甘辛カレーきつね丼、ブロッコリーの白和え、出汁のいらない豚汁が今日の献立

グラウンドゴルフ大会

1位 井上よしこさん

日高学区高齢者クラブ連合会主催の同大会が、10月20日に日高交流センター広場で開催されました。

参加者は女性11名を含めた25名で、市民自治会志賀勝弘会長の始球式でスタートし、ゲームは8ホール3ラウンドで行い、ホールインワンも多く出ました。成績は、1位 井上よし子 2位 菊地幸子 3位 市村豊信さんでした。

食生活改善推進会の方々がサポートに入り、2時間弱で3品の立派な料理が出来上がりました。「初めて料理らしい料理を作ったが、案外上手にでき、楽しかった」「これからは家でも作りたい」「なんで女性が料理することになったのか不思議になった」など、前向きな言葉が聞かれました。次回は減塩教室が1月26日(金)に開かれる予定です。

日高小学校創立150周年

日高学区の多くの住民が学んだ日高小学校が今年で創立150周年を迎え、さる9月11日に創立記念式典が開かれました。

明治6年、明治政府による「学制」発布の翌年に現在の田尻町に「発蒙舎」が創立、明治13年に今の交流センターのある場所に小津津小学校として移転、その後、日高高等尋常小学校、日高国民学校などと数回にわたり名称を変え、昭和30年に現在の日立市立日高小



発蒙舎の記念碑

文藝ひたか

日高短歌会



稚内に学友尋ねてひとり旅北へ北へと列車の旅に
礎 暁子
猛暑なれば忘れされおる「節」の字よ吾だけでもと
石井 正子
水戸にいて両親、祖母に結婚の意思表示すると今の
若もの 太田 初枝
中日に移籍の細川 大化けの予感的中殊勲の連打
小野 勝子
興奮のるつぼと化しや明秀の初V報告の大都市広場
小野 白梅
この夏は降り注ぐ陽のハンパ無く老いは籠りて水を
尾羽 千恵
かかさず 川井けい子
屋食をバランスよくとる教室の献立良ければ味のう
ましよ 久保田絹枝
いつまでの睦み保つや散策を八十路の友と歩を合は
せゆく 小池 久枝
着替えにとあげたる吾の古い服娘が着れば流行(は
やり)の服に 清水恵美子
早目なる夕食すませテレビ見る話す相手のなきはさ
びしき 村尾 君代
冴え渡るスーパーブルーの月見上ぐ語りかけくるよ
うな気がして 村尾 君代
会員募集 毎月第二土曜日 午後一時から 日高交流センターにて



交流センターに立つ二宮金次郎像



次の世代に向けて植樹を行う

学校となり、昭和45年に現在の場所に移りました。記念式典当日は、下級生たちの手で市民自治会から贈られたおぎつやよいの苗木を、また上級生たちの手

によって創立150周年記念積立金から購入されたクスの苗木をグラウンドの南西側に植樹し、新たに日高っ子の歴史を刻むこととなりました。

家族でおいもほり

秋空の下 イモ掘りに歓声



大きなイモあるかなー

日高学区市民自治会主催の、サツマイモ掘りを10月21日に日高交流センター西側の畑で開催しました。自治会青少年育成部・有志の手で5月に苗植えを実施し、暑いなか数回の草引きなど丹精を込めて育てた約500本のイモを掘りました。今年の夏は猛

暑であつたせい、例年になくイモが大きく育ち、蔓も同様に畑一杯に繁茂しました。事前準備の蔓切りにスタッフは苦勞してしました。

当日は、抜けるような青空に恵まれ、参加した9組約30人の親子は大きなイモに大喜びでした。イモが大きくすぎて子どもだけでは掘り起こすことができずスタッフ、親子が協力して掘っている姿が多く見られました。

レジ袋に好みのイモ10本を袋詰めし、最後は、市民自治会会長が朝早くから焼いたあつあつ、ほくほくのおいしい「焼きイモ」に舌つづみを打って解散となりました。

参加した親から「大きなイモにびっくりした」「楽

あの人 この人

小木津町
君島 信好さん
(72歳)



写真は大切な記録

君島さんは日立市で生まれ、日立市役所に勤務し、環境衛生課や郷土博物館などに配属され、記念図書館で定年を迎えました。

記念図書館に勤めていた時に、東日本大震災が発生しました。震災対応が続く中での退職だったそうです。

趣味として、昔は油絵を描いていましたが、30歳を過ぎたころから写真撮影に

魅力を感じ、今ではライフワークとなっているとのこと。

これまで写真集を3冊、自费出版しました。

一冊目は「日光・四季の移ろい」、2冊目は11月から3月まで白河市方面に何度も通って撮影し「白鳥福島にて2003-2012年」を出版しました。

3冊目は平成30年に出版

した「久慈川水系の四季」です。源流域である八溝山から河口までの写真集です。

そして現在は「日立の海岸をゆく」の題材で、伊師浜から久慈浜までの海岸を撮影した写真集を作成中とのこと。

また4人の子供さんに、たくさん思い出がまつたアルバムを、それぞれの結婚時に差し上げたそうです。

君島さんは「日立の桜を撮り終えたら、カメラ片手に小木津をぶらぶら歩き、そこで目にした光景を『じい散歩』と題した写真集にまとめられたらいいな」と話されていました。(増子功)

「来年も実施しなかった」「来年も実施して欲しい」との感想がありました。親子の絆をより深めた秋のひと時となったようです。来年も実施を予定してはいますので、参加してみてもいいでしょうか。

ふるさと

郷土 ひたか (24)

小木津三大地蔵
(小木津浜のお地蔵さん)

小木津浜にはいくつのお地蔵さまがいる。

そのうちの一体は、小木津の三地蔵の一つである。旧街道と静原から降りて来る海沿いの道が交わるT字路の交差点近くを20メートル程登った丘の中腹、笹の茂みにすっぽりと覆われた木漏れ日の中に静かに立っている。



木漏れ日の中に立つ小木津浜のお地蔵さん

このお地蔵さんに関する資料は少ないものの、近くの古老によると、今から約70年前までこのお地蔵さん

東連津

東本宿支部長
木田 源一

思い起こせば私の支部長歴は2度目、都合6期目になる。最初は平成10年、支部分割(本宿、安良宿支部)時に、2年間3期、平成30年より3期である。その間の14年間は、先日鬼籍に入られた飯野隆弘氏に連続6期お願いした。氏から高齢を理由に支部長辞退の申し入れがあり、支部内で支

支部長としてなにができた

部長選定を進めたが、自薦他薦共選任に至らず、やむなく2度目を引き受けた事である。支部活動は、地域の活性化の柱だ。自治会本部が全体の活動指針を企画し、支部がそれに添った活動を進めるのが理想だと思ふ。最初の支部長時は、各年度末に役員を招集し、軽い飲食を伴い意見交換と懇親を図った。コロナも落ち着いてきたことから、本部と連携した支部活動をした。

現在でも旧暦の6月10日には地蔵講が開かれ、地域の人によるお掃除のあと、宮司によるお祓いを行い、その後飲食しながら親睦を深めているそうだ。

津神社の本殿前から足元を見渡すと、小木津浜が眼下に見渡せ、改めて日高地区の自然の美しさを認識させられる。

編集後記

この度の豪雨による被害は、危機管理の甘さ、自然の猛威をまざまざと見せられる事となりました。慢心が引き起こした人災もあつたと感じています。震災から12年。身を引き締め、自然に真摯に向き合い、おごらない。そして起きた事をしっかりと後世に伝えて行かなければならないと改めて思う日となりました。(菊池理可子)



小木津浜を見下ろしながら立つお地蔵さん